

## 第3章 「鎌倉市にふさわしい博物館」の具体的なあり方

### 1 「鎌倉市にふさわしい博物館」の組織と機能

#### (1) 組織：鎌倉国宝館・鎌倉歴史文化交流館、その他

「鎌倉市にふさわしい博物館」の構築に当たっては、地域の歴史や文化を次の世代へと確実に継承するため、また調査研究の充実とその共有を図るため、将来的には総合博物館となる建物の建設が望まれますが、当面は新たな博物館用の大規模な建物を建設しないこととし、既存施設の強化及び市内に点在する遺産の現地での効果的な保存活用を目指します。

鎌倉歴史文化交流館を博物館法上の登録博物館としたうえで展示等の充実を図り、既存の登録博物館である鎌倉国宝館と併せ、2館を両輪とする組織整備によって博物館組織を再構築します。さらに現行の文化財課埋蔵文化財行政部門を再編し、博物館の調査研究機能の一部門として埋蔵文化財センター機能を位置付け、埋蔵文化財の調査(記録保存のための発掘調査及び学術発掘調査)と研究を実施する機関とすることを検討します。また、今後、美術館が設置される場合は、これも含めて博物館を構築します。

#### (2) 機能：収集・保管・調査研究・教育普及、ガイダンス、多目的ホールほか

##### ア 鎌倉歴史文化交流館の登録博物館への登録

鎌倉歴史文化交流館の博物館法第2条に基づく登録博物館への登録手続きを進めます。登録博物館としての要件となる収蔵施設については、鎌倉国宝館と同様の機能を付与すべくその充実を目指します。また博物館機能のメインである展示についても、充実・強化を図ります。

##### イ 鎌倉国宝館と鎌倉歴史文化交流館との連携強化

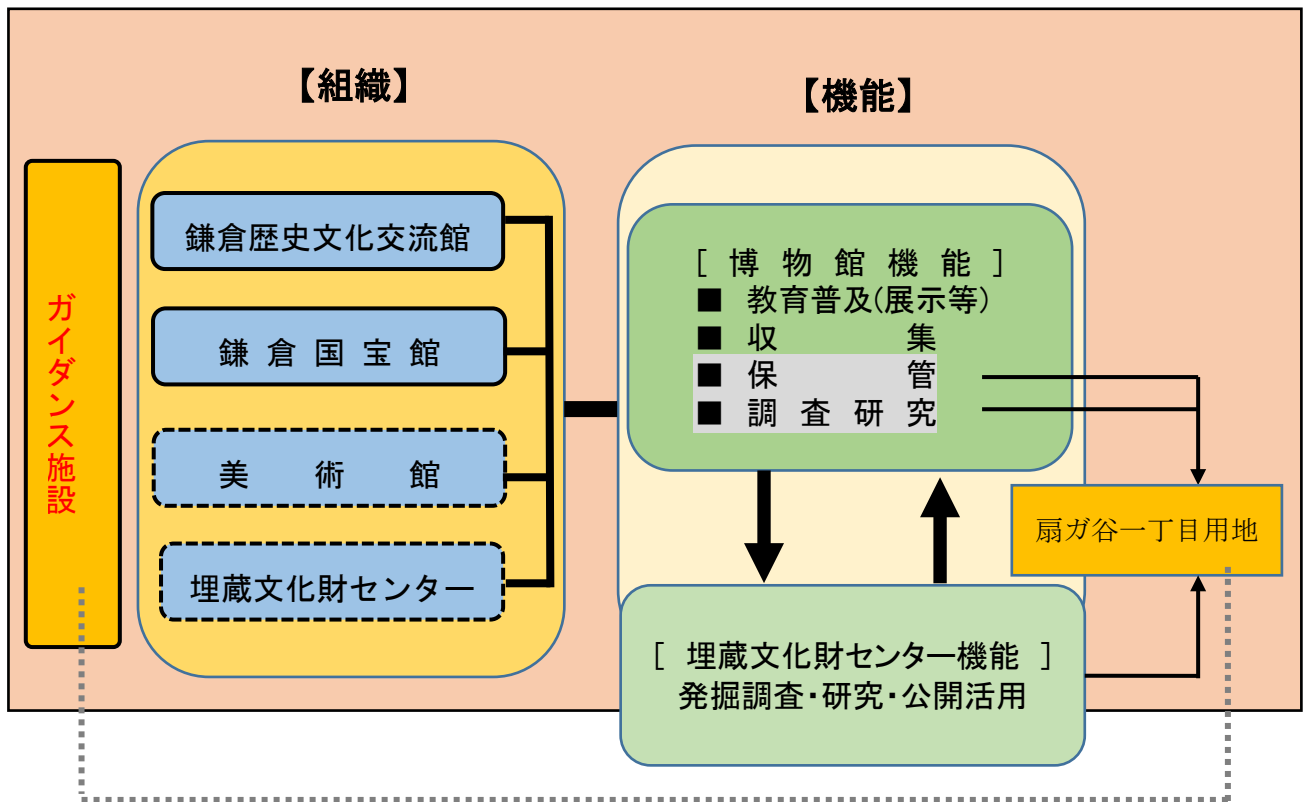
鎌倉国宝館の専門領域(中世から近世の仏教美術・仏教史及び関連する歴史分野)を尊重しつつ、鎌倉歴史文化交流館との機能分担を行います。同時に調査研究、展示・体験学習等の教育普及活動等において両館の連携をさらに進め、機能強化を図ります。

##### ウ その他の機能

既存施設や市内に点在する様々な遺産を活用するために、地域全体を博物館としてとらえる「エコミュージアム」の考え方を導入し、そのガイダンス施設及び多目的ホール等の機能についても、エコミュージアム総体としての

博物館機能の整備と併せて検討します。

### [鎌倉市にふさわしい博物館（エコミュージアムのコア）]



## 2 施設整備

### (1) 扇ガ谷一丁目用地の活用

博物館機能(収集・保管・調査研究・教育普及)のうち調査研究機能及び保管機能を充足する他、エコミュージアムガイドランス施設及び多目的ホールとして用いること、埋蔵文化財センター機能を併設すること、鎌倉国宝館と同様のグレードの収蔵庫を設置すること等を目的として、扇ガ谷一丁目用地に必要最小限の建物を建築することについて、鎌倉市公共施設再編計画との整合を図りながら検討します。

### (2) 既存施設の更新・拡充

鎌倉国宝館の老朽化対策等及び鎌倉歴史文化交流館の機能強化・拡充等について、鎌倉市公共施設再編計画に則って検討します。

# 扇ガ谷一丁目用地について

鎌倉歴史文化交流館 別館

鎌倉歴史文化交流館 本館

施設整備予定地



扇ガ谷1丁目

佐助1丁目

御成隧道

鎌倉市役所前

駐車場

-  扇ガ谷一丁目用地  
敷地面積（公簿）：14,959.32 m<sup>2</sup>
-  施設整備予定地  
敷地面積（公簿）：2,082.17 m<sup>2</sup>

### 3 エコミュージアムの考え方の導入

#### (1) エコミュージアムの概要

「エコミュージアム」という用語はユグ・ド・ヴァリーニにより考案された「エコミュゼ」の英訳であり、エコロジー（生態学）とミュージアム（博物館）とをつなぎ合わせた造語です。その概念は、1960年代後半に国際博物館会議(ICOM)の初代ディレクター、G.H.リヴィエールによって提唱され、「(エコミュージアムとは)地域社会の人々の生活と、その自然環境・社会環境の発達過程を史的に探究し、自然遺産及び文化遺産を現地において保存し、育成し、展示することを通じて当該地域社会の発展に寄与することを目的とする、新しい理念を持った博物館である」と定義されました。

つまり、従来の博物館が一つの建物として運営されるのに対し、エコミュージアムは一定の地域に点在する歴史・文化・自然・産業等の遺産を現地において保存・管理し、その全体をミュージアムと捉えるところに特徴があります。

また行政と地域住民が力を合わせ、その地域で受け継がれてきた自然や文化、生活様式を含めた環境を、総体として永続的な（持続可能な）方法で研究・保存・展示・活用することによって地域を見直し、地域社会の発展に大きく寄与することを目指すものです。

#### (2) 鎌倉市におけるエコミュージアムの構築

エコミュージアムは、地域全体を博物館としてとらえ運営していく仕組みで、地域に展開する資源である歴史・文化・自然・産業その他に関わる遺産群を、現地で保存・活用する衛星施設(サテライト)に位置付けます。地域内に点在する衛星施設（サテライト）間のネットワークに基づいたエコミュージアムのガイダンス、企画・運営、さらにエコミュージアム内外の情報交換や伝達基地としての役割を担う目的で、既存の博物館施設等を中核施設(コア)とします。そして、中核施設(コア)と各衛星施設(サテライト)及び衛星施設(サテライト)間を有機的に結ぶ散策ルートを発見の小径(ディスカバリートレイル)として設定します。

エコミュージアムは、これら中核施設(コア)、衛星施設(サテライト)及び発見の小径(ディスカバリートレイル)の3つの要素から構成されますが、鎌倉市では次のことを基本にそれらの設定について検討します。

#### ア 中核施設（コア）※1

鎌倉国宝館と鎌倉歴史文化交流館の2館の連携を強化し、機能の拡充を図りながら、中核施設(コア)とします。

#### イ 衛星施設（サテライト）※2

次に記す文化財や施設等を、衛星施設（サテライト）の候補として検討します。

(ア) 文化財：史跡、重要遺跡等

(イ) 生涯学習施設・文化施設等：生涯学習センター・図書館・鎌倉文学館・  
鏑木清方記念美術館・川喜多映画記念館等

(ウ) 歴史的建造物：鎌倉文学館・扇湖山荘・旧華頂宮邸等

(エ) その他歴史文化関連民間施設

(オ) 自然遺産

#### ウ 発見の小径（ディスカバリートレイル）※3

発見の小径(ディスカバリートレイル)については、子どもや地域住民の方々の学びの場となることも視野に入れ、鎌倉市歴史的風致維持向上計画に位置付けて整備することを検討します。

### 4 管理運営体制

#### (1) 市の役割

市は、市民、関係団体、さらには社寺等の協力体制を責任をもって構築するとともに、中核施設（コア）の運営を通じて、エコミュージアム全体の取りまとめを行います。さらに衛星施設(サテライト)や発見の小径(ディスカバリートレイル)の活用が市民等によって主体的に行われ、管理運営されるよう支援します。

#### (2) エコミュージアムの運営

住民の参画による、衛星施設(サテライト)及び発見の小径(ディスカバリートレイル)の運営(維持管理、公開活用等)を目指します。またエコミュージアムの構築・運営にあたっては、社寺等との協力関係の構築が不可欠であり、理解と協力を得たうえで、衛星施設(サテライト)としての参画を呼び掛けます。

市民・社寺・学校・商工会議所及び観光協会等の関係団体等とのさらなる連携を図るため、運営組織の立ち上げを検討します。運営組織においては、エコミュージアムへの参画がしやすく、有意義な活動が行えるような仕組み作りを心がけます。

一方、中核施設（コア）である鎌倉国宝館、鎌倉歴史文化交流館においては、市民ボランティアによる展示解説や案内等について検討します。

[鎌倉のエコミュージアム構築のイメージ]

